

りゃくおう ひ 暦応の碑

- ◇ 指定日 昭和30年8月8日
- ◇ 所在地 熊野町(児童公園内)
- ◇ 所有者 宮古市

この石碑に刻まれている^{りゃくおう}暦応3年は、西暦1340年にあたり、市内に多数ある石碑の中でも最も古い年代のものです。

堂々と深く刻まれた^{ばんじ}梵字「バン」は、智恵の光^{あまね}で宇宙を遍く照らす^{こんごうかいだいにちによらい}金剛界大日如来を表しています。

このような形態の石碑は、一般的には「^{いたび}板碑」や「^{いしとうば}石塔婆」などと呼ばれており、死者や祖先を供養するために立てられたと考えられています。

暦応の碑とほぼ同時代の^{げんこう}元亨4年(1324年)に、鎌倉幕府執権である北条高時が出した決裁状によると、^{へい い よ いちかずつら}閉伊余一員連という人物が^{かさま}鍬ヶ崎・笠間(現在の山口)の所領を認められています。



高さ 105cm 幅 65cm 厚さ 20cm

(梵字「バン」)
暦應三
十五 七月

石碑銘文